第２期 三股町
まち・ひと・しごと創生
総 合 戦 略

概 要 版

【計画期間】2020年度～2024年度

三 股 町

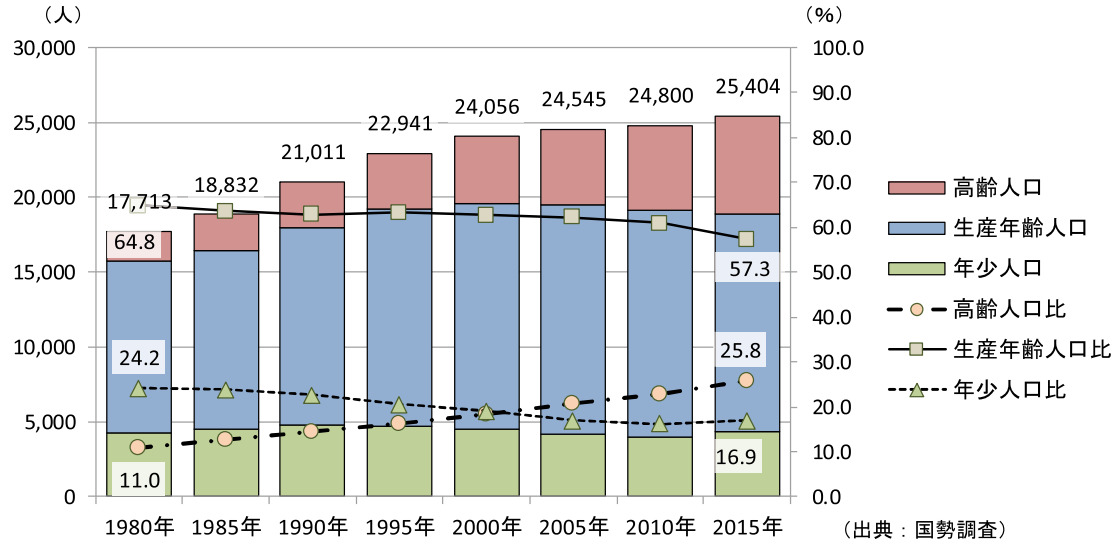
はじめに

三股町まち･ひと･しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」といいます。）は、人口減少によって生じる様々な問題を克服し、持続可能な三股町を実現するための地方創生の取組の指針となるものです。

今回策定した第２期総合戦略では、国の総合戦略及び三股町人口ビジョン並びに第１期総合戦略の評価検証を踏まえ、新たな課題や社会情勢の変化に的確に対応できるよう必要な見直しを行い、引き続き、人口減少問題に果敢に挑戦します。

三股町の人口の現状

1 3階層別人口の推移



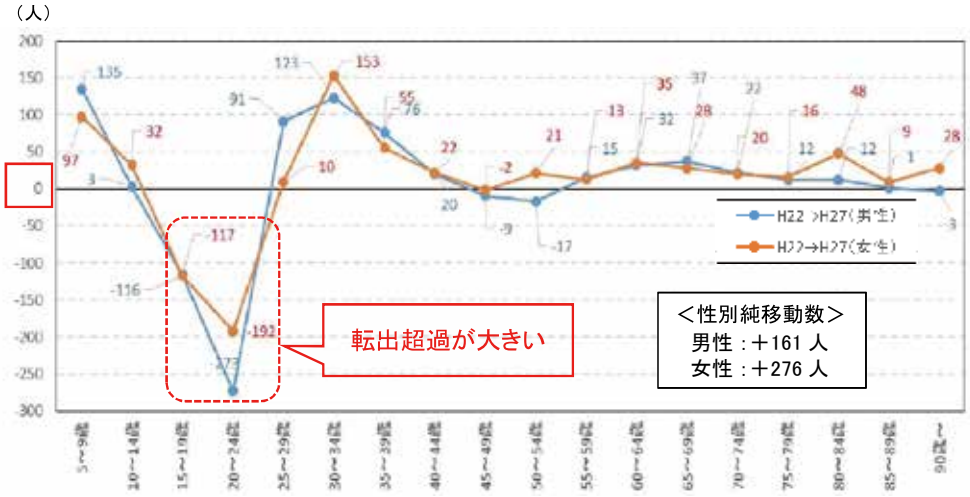
（出典：国勢調査）

本町の人口は、1980（昭和55）年から2015（平成27）年現在、35年間増加し続けています。

一方、年齢３区分人口では、1980（昭和55）年から2015（平成27）年までの35年間で、年少人口比は、7.3ポイント低下、生産年齢人口比は、7.5ポイント低下、高齢人口比は、14.8ポイント上昇となっており、少子高齢化が進行しています。

2 性別･年齢階級別純社会移動数の推移（H22→H27）

※横軸は、H27における年齢を示しています。

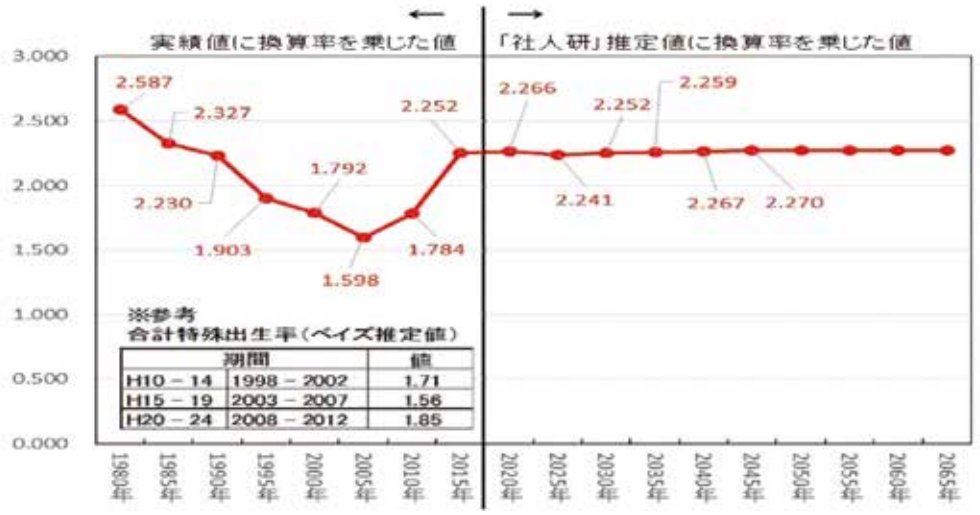


男女ともに、「15～19歳」「20～24歳」の年齢階級において、大幅な転出超過となっていることから、高校･大学卒業後の就職のタイミングで、町外に転出する若者が多いことが分かります。

若者の地元への定着は、本町の人口の将来展望を達成するために重要な課題であるといえます。

3 合計特殊出生率の推移

※ここでの合計特殊出生率は、0-4歳までの人口と出産年齢（15-49歳）の女性人口の比（CWR）に、国から示された換算率を乗じた値となります。また、2020年以降は、推計値となります。



※参考
合計特殊出生率（ベイズ推定値）

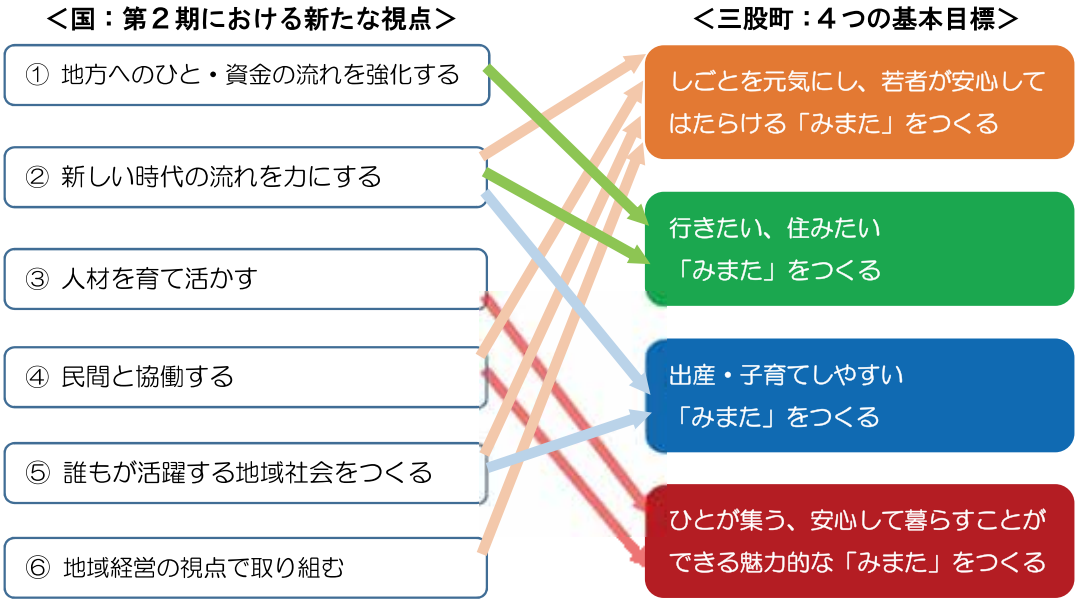
期間		値
H10－14	1998－2002	1.71
H15－19	2003－2007	1.56
H20－24	2008－2012	1.85

平成27（2015）年及び令和2（2020）年以降の本町の合計特殊出生率は、人口置換水準である2.07を超えています。今後も、これを維持するために、ライフステージに応じた様々な施策に取り組みながら出産・子育てにやさしいまちづくりとして定着を図っていく必要があります。

第2期三股町総合戦略の基本的な考え方

1 新たな視点と連動

第2期総合戦略においても切れ目のない地方創生の取組を進めるため、これまでの考え方を継続するとともに、国の第2期総合戦略で追加された新しい視点との連動を図りながら、4つの「基本目標」の達成に向けて進めていきます。



2 「SDGs（持続可能な開発目標）」との一体的な推進

本町の地方創生は、国際社会全体の「持続可能な開発目標」として、平成27（2015）年9月に国連で採択された「SDGs」の理念と同じくするものであるため、効率的・効果的に施策を展開することで、SDGsの達成にも貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

三股町第2期総合戦略の基本方針と施策・事業

基本目標１　しごとを元気にし、若者が安心してはたらける「みまた」をつくる

施策

- ① 地場産業の地域資源ブランド化と、雇用の創出
- ② 雇用を多く生み出す企業誘致の推進
- ③ 地元への若者定着の促進

具体的な事業

- みまた地域ブランド発信事業
- 農畜産物利用活性化推進事業
- 農業次世代人材投資事業
- 農業人材投資事業
- 企業立地促進事業
- 地元への若者定着促進事業
- 雇用推進事業

基本目標２　行きたい、住みたい「みまた」をつくる

施策

- ① まちのあらたな「にぎわい」の創出
- ② 移住・定住促進のための総合支援の充実
- ③ ふるさと三股のPR推進

具体的な事業

- 住民参加創造型公演制作事業
- みまたん霧島パノラママラソン事業
- ものづくりフェア事業
- スポーツ・文化合宿補助金
- 国、県と連携した移住支援金事業
- 移住・定住応援事業
- 過疎地域定住促進奨励金
- 空き家利活用の促進
- ふるさと三股ＰＲ推進事業

基本目標３　出産・子育てしやすい「みまた」をつくる

施策

- ① 出産からの子育てサポートの充実

具体的な事業

- 外部人材を活用した教育支援活動事業
- 子育て支援センター事業
- 子育て世代包括支援センター事業
- 特定不妊治療費助成事業
- ブックスタート・ウッドスタート事業
- 子ども医療費助成事業
- 放課後健全育成事業
- ファミリーサポートセンター利用料助成事業

基本目標４　ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な「みまた」をつくる

施策

- ① 町民による町民のための地域づくり
- ② 地域魅力化プロジェクト
- ③ 中央地区市街地の活性化

具体的な事業

- 高齢者等サロン活動支援事業
- 軽度生活援助事業
- 自主防災組織結成の促進
- みんなで創ろう、みまたん地域づくり推進事業
- ずっと住みたい協働事業
  （道路・公園等環境整備）
- 健幸アンバサダー事業※
- みまた景観形成活動支援事業
- 持続可能な地域づくり形成事業
- 空き店舗活用等商業支援地域活性化事業

※健幸アンバサダー：専門的な指導者ではなく、健康情報を大切な人に伝える伝道師のことです。

指　標	目標値	基準値	出　典	備　考
就業者数(人)	維持	11,928(H28)	市町村民経済計算統計表	R6年時点
新規就農者数(人)	20	8(H27-H30)	年ごとに県に報告する人数	R2からR6の5年累計
若年層(15歳～24歳)の転出超過	前年より改善	110人の転出超過(H30)	人口動態調査	R6年時点

指　標	目標値	基準値	出　典	備　考
各種イベントを通じた交流人口(人)	23,340	20,405(H30)	各イベント担当課	R6年時点
社会増(転入超過)	社会増の継続	68人の社会増(H30)	人口動態調査	R6年時点
商業年間商品販売額(百万円)(卸売業+小売業)	35,000	33,418(H28)	経済センサス、商業統計	R6年時点

指　標	目標値	基準値	出　典	備　考
子育て支援満足度※	3.0	2.58(R1)	町民アンケート	R6年時点
合計特殊出生率	2.07	1.85(H20-H24)	人口動態保健所・市区町村別統計	R6年時点
この地域で子育てをしたいと思う親の割合(%)(3,4か月児、1歳6か月、3歳児健診の平均値)	宮崎県平均値(94.5)以上	99.6(H30)	母子保健に関する実施状況等調査集計結果(健やか親子21(第2次)の指標)	R6年時点

※ 満足度:満足から不満までの５段階の各回答数に点数(「どちらとも言えない」を０点とし、「満足」を10点、「不満」を－10点)を乗じて算出したものです。

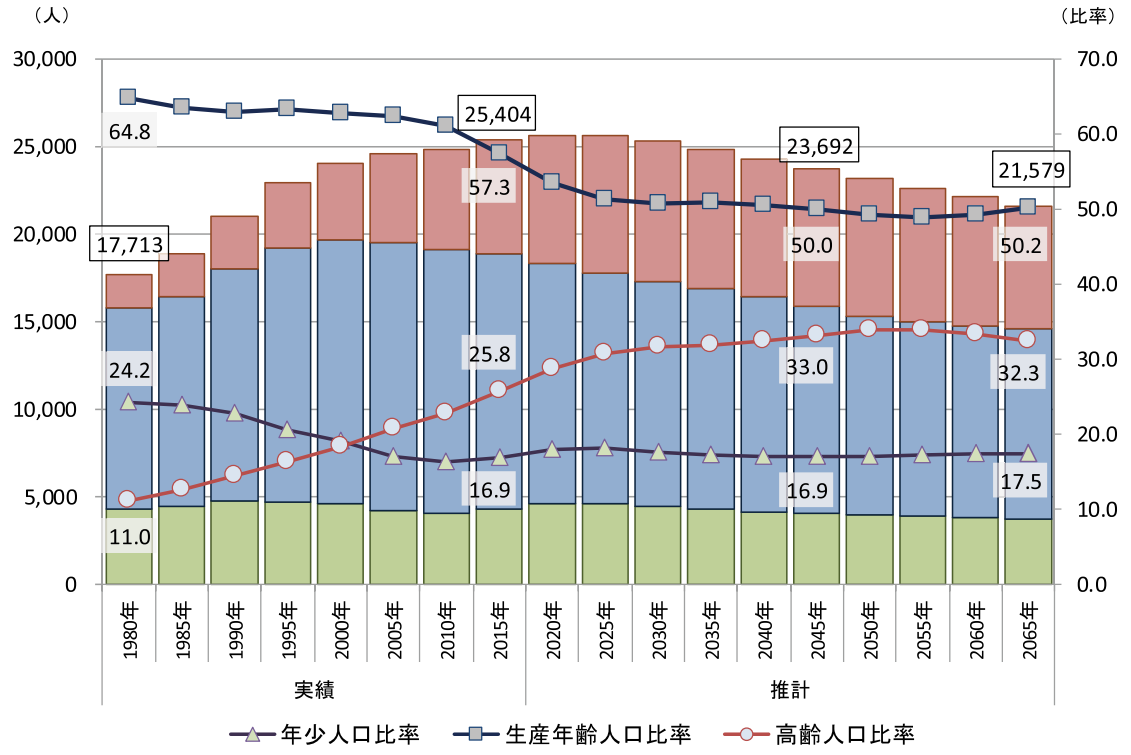
指　標	目標値	基準値	出　典	備　考
本町に「ずっと住み続けたい」と思う人の割合(%)	70.0	69.1(R1)	町民アンケート	R6年時点
中央地区人口減少率(%)	0.50(5,207人)	1.00 H27:5,286人 ↓ R元:5,233人	住民基本台帳	R6年時点

三股町の人口の将来展望

本町の人口に関する推計分析等から目指す取組の方向性等を考慮し、目標とする人口を展望します。

将来推計を考える上で社会移動なし（転入転出が均衡である状態）で考えることは現実的でなく、直近の5年間の移動率を考慮することでその町の特性を反映するとの理由から、本町では社会移動はあると考えます。

また、若年層（15歳から24歳）の人口流出抑制（2020年以降10%抑制）に取り組むとともに、現在の合計特殊出生率を維持することで、本町では令和47（2065）年の目標人口を「21,579人」と、2万人超えを確保するための各種施策を推進します。



本町では令和47（2065）年の目標人口を「21,579人」とし、各種施策に取り組みます。

おわりに

本町が掲げた令和47（2065）年の目標人口を達成するために、切れ目のない様々な施策を実行し、人口減少による影響を最小限に食い止め、少子高齢化を緩和することにより、将来にわたり住みやすい三股町を持続していきます。

本町の恵まれた自然と資源を活かしながら、町民の安全・安心がしっかりと確保され、暮らしやすい環境を実現していくため、第2期となる「三股町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少によって生じる様々な課題に対して果敢に挑戦していきます。

第２期 三股町
まち・ひと・しごと創生総合戦略
「概要版」

発行年月：令和２年３月
発　　行：三股町
編　　集：三股町企画商工課　企画政策係
住　　所：〒889-1995
　　宮崎県北諸県郡三股町五本松１番地１
電　　話：（0986）52-1114
ＦＡＸ：（0986）52-9762
ＵＲＬ：https://www.town.mimata.lg.jp/

ドキドキ
みまた